

本年度の重点目標

一人ひとりの尊厳を重んじ、その能力を伸ばし、豊かな人間性を備えた人間の育成をめざす。
 ・一人ひとりの発達と障害に応じた教育を行う。
 ・明るく楽しい生活をおくるために、調和のとれた心身の育成に努める。
 ・社会の一員として積極的に社会に参加し、たくましく自立できる人間の育成に努める。

領域	重点評価項目	中間評価(10月)	総合評価(3月)	
		自己評価	自己評価	学校関係者評価
1 学校経営	組織や教育環境の具体的課題を明らかにして、教職員一人ひとりがよりよい学校づくりに参画している。			
	学校、家庭、地域が連携し、開かれた学校づくりに努めている。			
2 教育課程・学習指導	児童生徒の社会的・職業的自立と社会参加を目指した教育課程の編成に努めている。			
	児童生徒一人ひとりの発達段階や学習理解の実態を踏まえ、わかりやすい授業に努めている。			
3 生徒指導	児童生徒の実態にあわせてきめ細かな生活指導や通学指導に努めている。			
	児童生徒の主体的な活動を通して心豊かにたくましく生きる人間の育成に努めている。			
	いじめを見逃さないよう、児童生徒の学校生活の把握および適切な指導を行う。			
4 進路指導	体験的な取り組みを通して働くことの喜びや大切さを知らせ、系統的なキャリア教育を通して卒業後の進路を考えられるように努める。			
	関係機関等の障害者理解の促進に努めている。			
5 保健・安全指導	児童生徒の健康の増進と体力の向上に努め、基礎的な体力づくりを学習で取り組んでいる。			
	家庭・医療機関等との連携を図り、児童生徒の事故・怪我、病気等への対応を適切に行っている。			
	避難訓練や引き渡し訓練等を通して防災意識を高めている。			
6 人権教育	児童生徒一人ひとりがお互いに人として尊重しあう仲間づくりに努めている。			
	教職員研修を実施し、児童生徒の人権を尊重する指導を行っている。			
7 環境教育	身近な自然や環境を学習の場とした教育活動に努めている。			
	児童生徒の実態に応じて清掃等を通して環境について考える取り組みを行っている。			
8 交流及び共同学習	学校間交流や地域との交流を進め、児童生徒の生活経験の拡大に努めている。			
	障害の有無にかかわらず、地域で共に暮らす共生社会の実現を目指し共同学習に取り組んでいる。			
9 教職員の現職教育	ICT機器の有効活用と適切な管理を行い、教職員のICT活用指導力の向上に努めている。			
	各学部のニーズに沿った実践・研究を進め、教育力の向上に努めている。			
10 センターの機能の発揮	特別支援教育の趣旨を踏まえ、地域のニーズにあわせた教育相談活動に努めている。			
	特別支援学校としての専門性を生かし、地域のセンター的役割を担っている。			
11 その他学校の取り組み	学校運営協議会において、関係機関(地域や行政等)と連携する中で、児童生徒の安心安全な学校環境作りが行われている。			
	学校の情報を地域や保護者にホームページ等で積極的に発信している。			

(注) ・評価については、A B C Dの4段階で示す。

・生徒指導の欄に、いじめの項目を入れること。また、教職員のICT活用指導力の向上、キャリア教育に関する項目について、任意の領域に含めること。

・自己評価：A B C Dの基準については、評価項目の内容が、十分に達成できた場合(達成度80%以上)はA、おおむね達成できた場合(達成度60%以上80%まで)はB、あまり達成できていない場合(達成度40%以上60%まで)はC、達成できていない場合(達成度40%未満)はDとする。ただし、アンケートの結果等を機械的にA B C Dの評価に置き換えるのではなく、学校の現状を真摯に分析・検討し、今後の学校改善につながるよう、適切に評価すること。